古田忠士君三回忌会食

御承知のように、**古田さん**は平成 26 年 5 月 13 日に亡くなられました。**小西さん**の提案で、「**古田 忠士君三回忌会食」**を、一昨日 14 日(土)11:30~13:00 の間、彼と最後に会った JR 市ヶ谷駅の「TO THE HERBS」(トゥザハーブズ)において行いました。また、古田さんへの弔辞を述べられ、

その年の 12 月 17 日に亡くなられた **青野秀雄さん**の追悼を併せ行いまし た。

参加者は、古田さんの御次男の 古田浩司君(メールに「浩二」君と 書きましたが、右の名刺を貰って 誤りに気付きました)、小西さん、 田鍋さん、長岡さん、吉川さん及び 村川の6名です。

ウィキペディアによりますと、古田

福崎手袋株式会社
東京営業所
主任 古 田 浩 司

東京営業所
主任 古 田 浩 司

東京営業所
主任 古 田 浩 司

東京営業所 〒103-0004
東京部中央阪東日本橋3-12-11 リブラ東日本橋VI 2F 携帯 990-1323-3575
E-mail:furuta@fukuzaki.jp
本 社 〒769-2702 香川県東かがわ市松原1658
TEL(0879)25-2201代)FAX(0879)25-0115

さんは、1974年から 1976年まで、理由は知りませんが、「**忠司**」という登録名を使われました。浩司君は古田さんの現役最後の名前の「司」を貰っています。平成10年に、日本シリーズで**ベイスターズ**が二度目の優勝をし、川崎の御自宅に祝福の電話をしたとき、古田さんはいませんでしたが(ウィ

キによりますとその頃に52歳で 球団を退職されています)、息子 さんが電話口に出られたので、 「お父さんに、おめでとうと伝えて ね」と言った相手が浩司君だった のか御長男だったのか・・・。

写真右は、会食開始時の皆さんです。浩司君は優に180センチを越す長身で、筋肉隆々です(お父さんは172センチでした)。

浩司君が今の会社に勤務し始めたのは2年前だそうです(地元の独立リーグ所属の縁です)。帰宅してネットで名前を検索しましたら



高松市に本拠を置く「アークバリアドリームクラブ」のコーチ兼投手となっていました。彼の話では、学校の野球部の指導もしていたそうです。彼の仕草から左投げだと分かりました。一時は肩をこわして、苦しい時期もあったそうです。

年齢は確か26歳と言われたと思います。勤務されている会社は、文字どおり手袋を製造する会社で、名刺にもあるように、東京には、よく出て来られるようです。なぜ、小西さんが、彼と連絡を取れたかというと、古田さんが亡くなったとき、お姉さんが教えて下さったからだということでした。

まず、小西さんが作成した写真額を贈呈しました。この写真は、平成25年12月7日の**関東支部 忘年会で青野さん、来島さん**と共に撮られたものです。浩司君の奥様は妊娠5ヵ月だそうです。忠士 三世の健やかな成長が望まれます。





増田(満)さんが、**青野さん**から情報を貰って、古田さんのマンションの郵便受けに、同期生会への誘いの手紙を何度か投函した話、**柳田さん**が浩司君に、四国に会いに行くからという電話をした話(浩司君は覚えています)、西高同期の**筒井さん**が、お父さんが大洋漁業に勤務されていたこともあって、熱狂的なホエールズ/ベイスターズ・ファンで、川崎球場に通い詰めた話、その筒井さんが、唯一のホームランを目撃した話、日新中1年生のとき、古田さんが私に、「俺の弁当箱を洗わせてやる」と言われてむかついた話など、次から次へと、思い出話が飛び出しました。**長岡さん**は、「顧客には、できませんとは絶対に言うな。やってみますと言え」「積極的にしゃべる人間になれ」などと、営業マンとしての心構えを教育していました。

古田さんは、自宅ではほとんど昔話をしなかったようで、浩司君は、古田さんが東京オリンピックのときに聖火ランナーをしたことを聞いたのが、唯一の昔話だと言います。彼は、今の職場では、父親がホエールズの選手だったことは言っていないそうです。





吉川さんが、12:30に 兜町に向けて出発しなければならないというので、 お店の女性に、全員の写 真を撮っていただきました (写真右)。

小西さんは、13:00に お開き後、すぐに米国の シカゴに飛び、20日に帰 国するそうですから、お忙 しいです。

2年前の関東支部観桜 会のレポートを切り取って お送りします(下記)。帰り に、古田さんが坐った席を 浩司君に見てもらいました。



私はベイスターズ・ファンですが、同じ〈ファンの田鍋さんとともに、古田さんに開幕スタート不調の不満をぶつけました。彼曰〈、4 月 2 日 (水)の巨人戦で尚成が 5 点リードしたところで、新人投手に代えたのは誤りだという話がありました。新人には荷が重すぎるというのです。この試合は 15 対 9 で負けました。

田鍋さんが「古田が最も緊張したのはいつだい?」と聞きました。彼曰〈、かなり早〈一軍出場がかない、ノーアウト、ランナー一塁の場面で代打を命ぜられた自分は、サード長嶋、ファースト王の状

況下でバントを命ぜられ、ツー・ナッシングとれ、ツー・ナッシングとなったところで、スリー・なったとさいいます。 ときだといいます。 投手の名な投手だったといいます。翌日からは二軍落ちで(そのが、毎日バントを向ばかりをもないいます。からはかりをもないます。ではかりをもなれたからです。



浩司君と再会を約束して別れました。

以上